

# 第2期 新させぼっ子未来プラン中間見直し 各事業における検討状況について



佐世保市子ども未来部

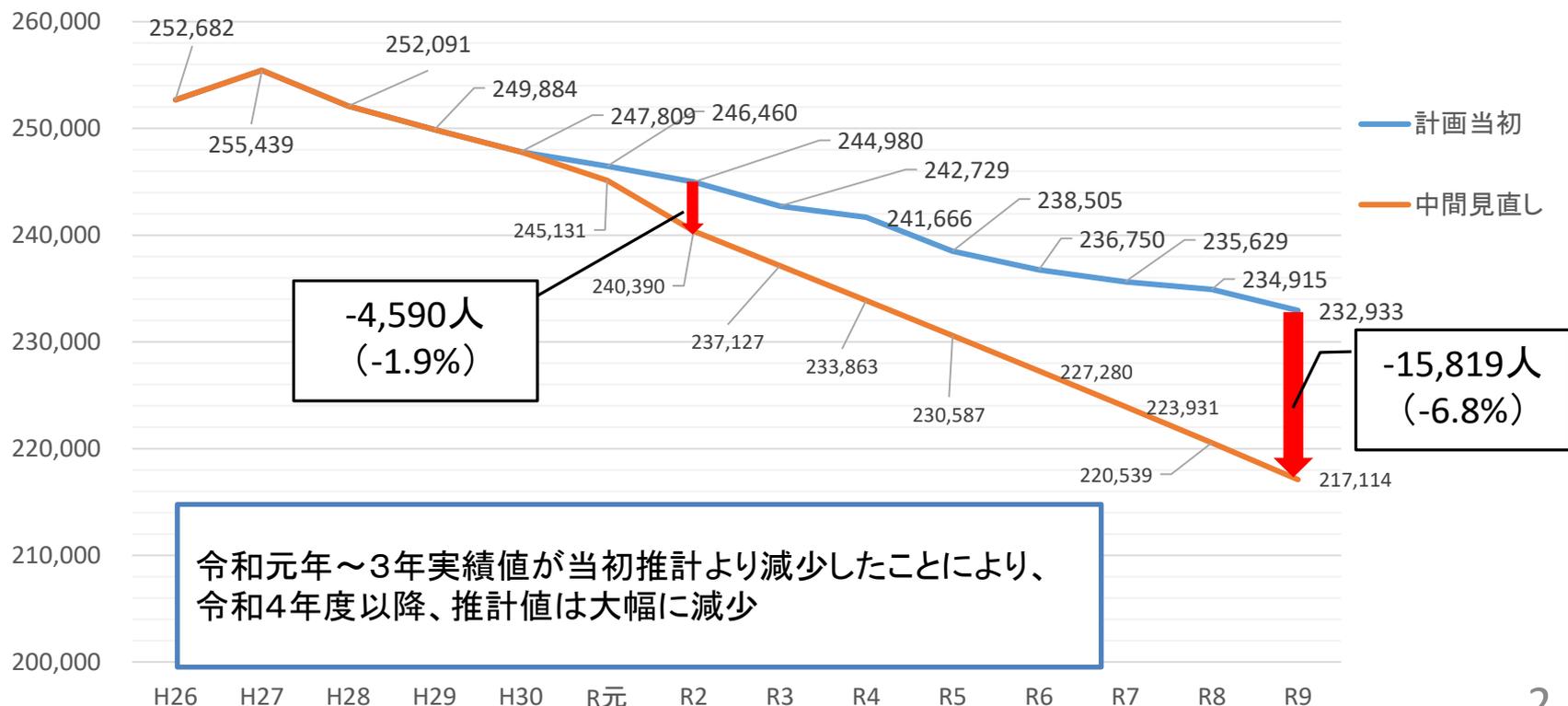
# 1 プラン見直しに係る人口推計について1

【推計手法】コーホート変化率法(人口推計の手法として一般的に用いられているもの)

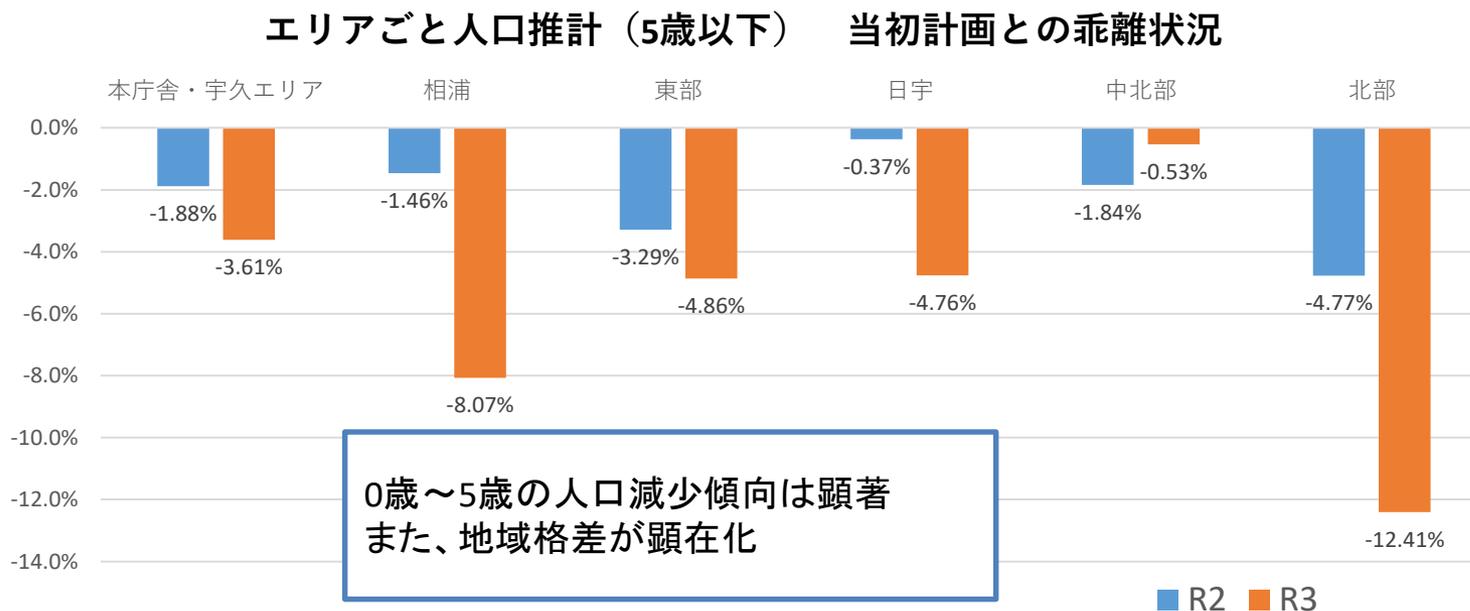
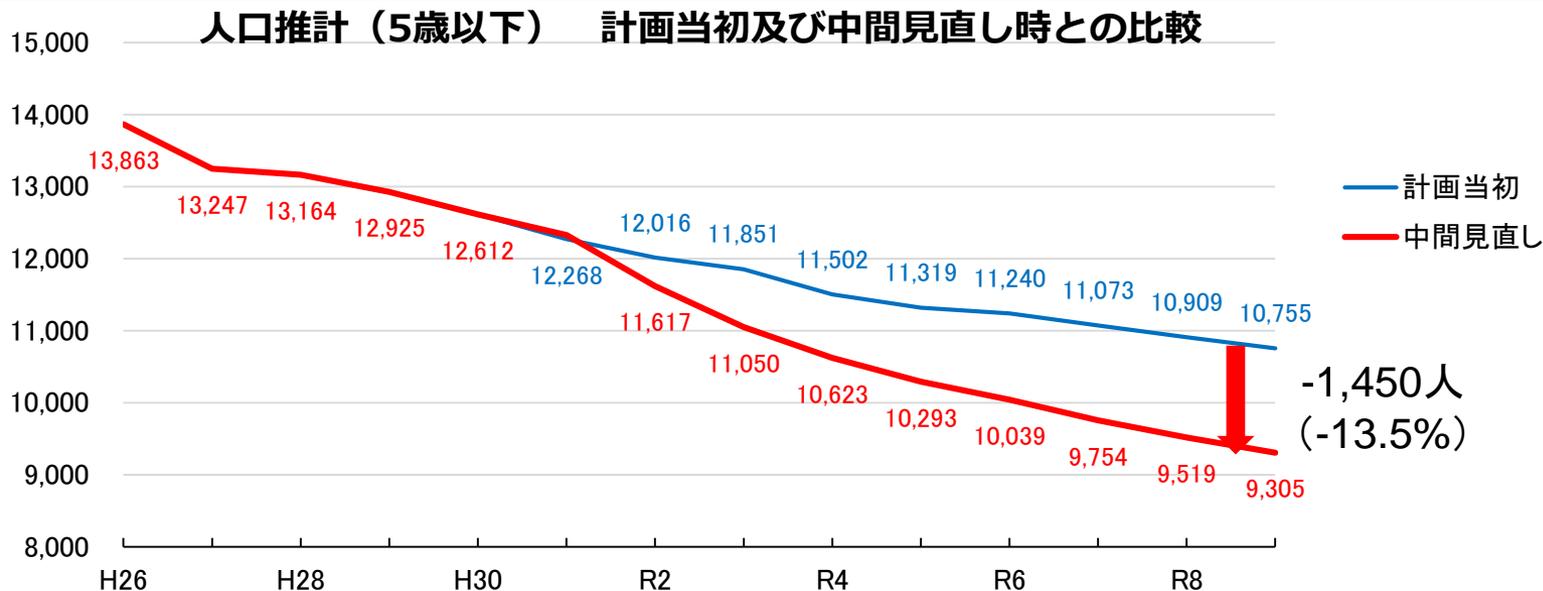
※第1期・第2期とも同手法にて算定

令和2～3年度実績数値を踏まえ、再度算出し、令和2年度計画策定当初の推計値と比較する。

人口推計(市全体) 計画当初と中間見直し時との比較



# 1 プラン見直しに係る人口推計について2



# 2 教育・保育の量の見込み 推計概況 1

計画策定当初

教育・保育の量の見込み = 利用者ニーズの推計

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1号認定	2,993人	2,875人	2,817人	2,785人	2,788人
2号認定	3,516人	3,377人	3,309人	3,270人	3,275人
3号認定（0歳）	946人	972人	996人	1,007人	1,020人
3号認定（1・2歳）	2,577人	2,694人	2,736人	2,759人	2,770人
合計	10,032人	9,918人	9,858人	9,821人	9,853人



確保方策の方向性 = 施設受入体制

(単位：人)

		令和2年度 10,032人			令和3年度 9,918人			令和4年度 9,858人			令和5年度 9,821人			令和6年度 9,853人		
		1号認定	2号認定	3号認定	1号認定	2号認定	3号認定	1号認定	2号認定	3号認定	1号認定	2号認定	3号認定	1号認定	2号認定	3号認定
確保方策 計		2,993	3,516	3,523	2,875	3,377	3,666	2,817	3,309	3,732	2,785	3,270	3,766	2,788	3,275	3,790
確保方策	特定教育保育施設	2,259	3,472	3,394	2,141	3,333	3,537	2,083	3,265	3,603	2,051	3,226	3,637	2,054	3,231	3,661
	特定地域型保育事業	0	18	29	0	18	29	0	18	29	0	18	29	0	18	29
	確認を受けない幼稚園	734	0	0	734	0	0	734	0	0	734	0	0	734	0	0
	認可外保育施設	0	26	100	0	26	100	0	26	100	0	26	100	0	26	100

# 2 教育・保育の量の見込み 推計概況2

実績を踏まえた令和4年度～推計値（案）

令和2～3年度実績より集計

人口推計再計算後 試算し直し

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1号認定	2,587人	2,435人	2,339人	2,267人	2,196人
2号認定	3,932人	3,847人	3,696人	3,582人	3,469人
3号認定（0歳）	819人	802人	841人	843人	843人
3号認定（1・2歳）	2,548人	2,607人	2,552人	2,565人	2,625人
合計	9,886人	9,691人	9,428人	9,257人	9,133人

令和2～3年度実績より集計

教育・保育量の見込に合致

		令和2年度 10,531人			令和3年度 10,569人			令和4年度 9,428人			令和5年度 9,257人			令和6年度 9,133人		
		1号認定	2号認定	3号認定	1号認定	2号認定	3号認定	1号認定	2号認定	3号認定	1号認定	2号認定	3号認定	1号認定	2号認定	3号認定
確保方策 計		3,370	3,764	3,397	3,179	3,935	3,455	2,339	3,696	3,393	2,267	3,582	3,408	2,196	3,469	3,468
確保方策	特定教育保育施設	3,030	3,724	3,218	2,870	3,854	3,267	2,030	3,615	3,205	1,958	3,501	3,220	1,887	3,388	3,280
	特定地域型保育事業	0	14	28	0	13	35	0	13	35	0	13	35	0	13	35
	確認を受けない幼稚園	340	0	0	309	0	0	309	0	0	309	0	0	309	0	0
	認可外保育施設	0	26	151	0	68	153	0	68	153	0	68	153	0	68	153

## 検討の経緯・方向性等

《見直しの方向性》量の見込について下方修正が必要と考えます。

《検討経緯・背景等》

施設の利用実績について、計画当初策定時と比較すると、全体としては10%未満の乖離状況であるため、「数値見直しをしない=当初計画どおり」とすることもありえます。

しかし、令和2～3年度の実績を踏まえた令和4年度以降の推計値を見ると、計画当初と比較して10%以上の乖離が見られる認定種別もあることから、現状に即した修正が必要と考えます。

# 3 地域子ども・子育て支援事業 見直し(案) 記載例

①各事業 令和2～3年度における「量の見込み」及び「確保方策」の実績値を記載

②計画当初の見込みとの比較を算出  
※確保方策も数値化されている場合、同様に算出

## ②地域子育て支援拠点事業

### 令和2～3年度実績

区分	R2年度	R3年度
量の見込み (月あたり延べ利用人数)	6,390人	4,740人
確保方策 (実施体制)	* 公立の施設での対応及び民間施設への委託を通じ、子育て支援事業として「交流の場の提供・交流促進」、「子育てに関する相談・援助」、「地域の子育て関連情報の提供」、「子ども・子育て支援に関する講習」等を実施	

### 当初見込みとの比較

R2年度	R3年度
77.1%	57.8%

### 計画当初推計値

R4年度	R5年度	R6年度
8,120人	8,030人	7,950人

### 実績を踏まえた令和4年度～推計値(案)

区分	R4年度	R5年度	R6年度
量の見込み (月あたり延べ利用人数) (案1) H29～R3実績ベース	6,021人	5,899人	5,788人
量の見込み (月あたり延べ利用人数) (案2) H29～R元実績ベース	7,038人	6,896人	6,767人
確保方策 (実施体制)	同上		

見直し(案)

### 検討の経緯・方向性等

#### 《見直しの方向性》

量の見込について下方修正が必要と考えます。

#### 《検討経緯・背景等》

令和2～3年度において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により利用人数は減となっています。今後については、コロナによる影響が低減されれば、一定の回復が見込まれますが、少子化の影響により、減少傾向は続くことが想定されます。よって、コロナの影響をうけた令和2～3年度の実績を除外し、試算した人数をもって修正することを検討しています。

④見直し(案)を提案するに至った経緯・背景等を記載

③今回見直し(案)として提案する案を枠囲いにして提示

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況 1

## ①利用者支援事業

### 令和2～3年度実績

区分		R2年度	R3年度
基本型・ 特定型	量の見込み(実施体制)	1か所	0か所
	確保方策(実施体制)	1か所	0か所
母子 保健型	量の見込み(実施体制)	1か所	1か所
	確保方策(実施体制)	1か所	1か所

### 当初見込みとの比較

R2年度	R3年度
100%	0%
100%	0%
100%	100%
100%	100%

### 実績を踏まえた令和4年度～推計値(案)

区分		R4年度	R5年度	R6年度
基本型・ 特定型	量の見込み(実施体制)	1か所	1か所	1か所
	確保方策(実施体制)	1か所	1か所	1か所
母子 保健型	量の見込み(実施体制)	1か所	1か所	1か所
	確保方策(実施体制)	1か所	1か所	1か所

### 計画当初推計値

R4年度	R5年度	R6年度
1か所	1か所	1か所

変更なし

## 検討の経緯・方向性等

### 《見直しの方向性》

計画当初策定時と引き続き、目標設定を行い、事業を実施していく必要があると考えます。

### 《検討経緯・背景等》

#### ○基本型・特定型 = 「保育コンシェルジュ」

特定型を令和4年度以降、改めて設置する予定はありませんが、令和5年4月「こども家庭庁」設置等の国の動向を踏まえ、必要な対応について検討を行います。なお、保育コンシェルジュ廃止後においても利用者へのサービス低下とならないよう、各窓口において十分に連携するなど、支援体制を維持する必要があります。

#### ○母子保健型 = 「ままんち させぽ」

心身の問題や経済面での支援等、必要とする支援が多様化しており、実施体制について検討する必要があると考えます。

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況2

## ②地域子育て支援拠点事業

令和2～3年度実績

区分	R2年度	R3年度
量の見込み (月あたり延べ利用人数)	4,932人	4,483人
確保方策 (実施体制)	* 公立の施設での対応及び民間施設への委託を通じ、子育て支援事業として「交流の場の提供・交流促進」、「子育てに関する相談・援助」、「地域の子育て関連情報の提供」、「子ども・子育て支援に関する講習」等を実施	

当初見込みとの比較

R2年度	R3年度
59.5%	54.7%

計画当初推計値

R4年度	R5年度	R6年度
8,120人	8,030人	7,950人

実績を踏まえた令和4年度～推計値(案)

区分	R4年度	R5年度	R6年度
量の見込み (月あたり延べ利用人数) (案1) H29～R3実績ベース	6,021人	5,899人	5,788人
量の見込み (月あたり延べ利用人数) (案2) H29～R元実績ベース	7,038人	6,896人	6,767人
確保方策 (実施体制)	同上		

見直し(案)

検討の経緯・方向性等

《見直しの方向性》

量の見込みについて下方修正、また、確保方策について当初計画のとおり体制を維持することが必要と考えます。

《検討経緯・背景等》

令和2～3年度において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により利用人数は減となっています。

今後については、コロナによる影響が低減されれば、一定の回復が見込まれますが、少子化の影響により、減少傾向は続くことが想定されます。

よって、コロナの影響を受けた令和2～3年度の実績を除外し、試算した人数をもって修正することを検討しています。

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況3

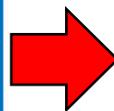
## ③妊婦健康診査

### 令和2～3年度実績

区分	R2年度	R3年度
量の見込み (受診人数) (延べ受診回数)	1,815人 21,648回	1,703人 19,378回
確保方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施場所：医療機関</li> <li>・実施時期：随時実施</li> </ul>	

### 当初見込みとの比較

R2年度	R3年度
92.6%	90.7%
92.0%	83.7%

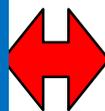


### 実績を踏まえた令和4年度～推計値（案）

区分	R4年度	R5年度	R6年度
量の見込み (受診人数) (延べ受診回数) (H29～R3実績ベース)	1,633人 19,596回	1,566人 18,792回	1,502人 18,024回
確保方策	同上		

### 計画当初推計値

R4年度	R5年度	R6年度
1,900人 22,800回	1,870人 22,440回	1,840人 22,080回



見直し（案）

### 検討の経緯・方向性等

#### 《見直しの方向性》

量の見込みについて下方修正、また、確保方策について当初計画のとおり体制を維持することが必要と考えます。

#### 《検討の経緯・背景等》

令和2年度の実績は計画と比較し、10%以内の減少に留まっているもの、令和3年度においては延べ受診回数が10%以上減少しています。

さらには、令和4年度以降、再度試算した数値と、当初見込み数値には、大きな乖離が見られるため、現状に即して、見込み数値を減とする方向で見直す必要があると考えます。

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況4

## ④乳児家庭全戸訪問事業

令和2～3年度実績

区分	R2年度	R3年度
量の見込み(対象者数)	1,657人 (電話1,123人)	1,503人 (電話1,021人)
確保方策(実施体制)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市(子ども保健課)において実施。家庭訪問員(令和3年度:13人)、助産師(令和3年度:5人)が訪問。</li> <li>家庭訪問員は、市が実施している子育てサポーター養成講座を受講し、一定期間、子育て支援に関する活動の経験を有する者。</li> </ul>	

当初見込みとの比較

R2年度	R3年度
86.8%	79.5%

計画当初推計値

R4年度	R5年度	R6年度
1,860人	1,830人	1,800人

実績を踏まえた令和4年度～推計値(案)

見直し(案)

区分	R4年度	R5年度	R6年度
量の見込み(対象者数)(案1) (H29~R3実績ベース)	1,640人	1,596人	1,547人
量の見込み(対象者数)(案2) (H26~H30実績ベース)	1,690人	1,644人	1,594人
確保方策(実施体制)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市(子ども保健課)において実施。家庭訪問員(令和4年度:12人)、助産師(令和4年度:6人)が訪問。</li> <li>家庭訪問員は、市が実施している子育てサポーター養成講座を受講し、一定期間、子育て支援に関する活動の経験を有する者。</li> </ul>		

検討の経緯・方向性等

《見直しの方向性》

量の見込みについて下方修正、また、確保方策について当初計画のとおり体制を維持することが必要と考えます。

《検討経緯・背景等》

当初計画策定時に見込んでいた令和2～3年度の対象者数が、大幅に減となっています。

それに伴い、令和4年度以降、再試算した数値と、当初見込み数値には、大きな乖離が見られるため、現状に即して、見込み数値を減とする方向で見直す必要があると考えます。

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況5

## ⑤ (イ) 養育支援訪問事業

令和2～3年度実績

区分	R2年度	R3年度
量の見込み(延べ訪問世帯数)	112件	117件
確保方策(実施体制)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市(子ども保健課)において実施。</li> <li>養育支援家庭訪問員(R3年度:4人)、養育支援助産師(R3年度:5人)が訪問。</li> <li>1回あたりの支援時間は2時間以内とし、回数は8回を限度。</li> </ul>	

当初見込みとの比較

R2年度	R3年度
65.9%	68.8%

計画当初推計値

R4年度	R5年度	R6年度
170件	170件	170件

変更なし

実績を踏まえた令和4年度～推計値(案)

区分	R4年度	R5年度	R6年度
量の見込み(延べ訪問世帯数) (R元～R3実績ベース)	120件	120件	120件
量の見込み(延べ訪問世帯数) (H29～R元実績ベース)	130件	130件	130件
量の見込み(延べ訪問世帯数) (H28～H30実績ベース)	150件	150件	150件

確保方策(実施体制)

- 市(子ども保健課)において実施。
- 養育支援家庭訪問員(R4年度:2人)、養育支援助産師(R4年度:6人)が訪問。
- 1回あたりの支援時間は2時間以内とし、回数は8回を限度。

検討の経緯・方向性等

### 《見直しの方向性》

量の見込みについて、当初計画のとおりとし、また、確保方策も当初計画の体制を維持することが必要と考えます。

### 《検討経緯・背景等》

当初計画策定時に見込んでいた令和2～3年度の延べ訪問世帯数が、大幅に減っています。

また、令和4年度以降の再試算した数値も同様に減少していますが、当事業は支援を要する家庭及び児童にとってのセーフティーネットの位置づけもあることから、実績如何にかかわらず体制を整備する必要があると考えます。

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況6

## ⑤ (ロ) 子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業

令和2～3年度実績

区分	R2年度	R3年度
実施の有無 (実施体制)	実施	実施
	・「佐世保市子ども安心ネットワーク協議会」における委員会や検討会の定期的な開催、必要に応じた個別ケース会議の開催を通じ、子どもを守るための包括的なサポートを行います。	

当初見込みとの比較

R2年度	R3年度
100%	100%

実績を踏まえた令和4年度～対応(案)

区分	R4年度	R5年度	R6年度
実施の有無 (実施体制)	実施	実施	実施
	同上		

計画当初推計値

R4年度	R5年度	R6年度
実施	実施	実施

変更なし

### 検討の経緯・方向性等

#### 《見直しの方向性》

引き続き、関係機関と連携のもと、事業を実施していく必要があると考えます。

#### 《検討の経緯・背景等》

- ・最近の相談内容の傾向は、様々な問題が絡み合い、虐待や家庭内暴力といった深刻な状況に陥っている事例が増加しています。
- ・特に、虐待相談の中でDVの目撃(面前DV)は、心理的虐待として認知され、警察から児童相談所へ通告されるケースが増加しています。
- ・新型コロナウイルス感染拡大による影響として、長期欠席児童(1か月7日以上)は、令和元年度(コロナ禍前)と令和3年度の比較において、小学生・中学生ともに増加傾向にあります。
- ・加えて、自宅で過ごす時間が長くなったことから、ゲームやインターネットへの依存傾向や、虐待や家庭内暴力に至るケースが増加しています。
- ・一方、コロナ禍で家庭内の問題が表出されにくくなっており、虐待が潜在化する懸念があります。
- ・これら課題に対応し、虐待を未然に防止するためには、各関係機関とのさらなる連携強化が重要となっています。

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況7

## ⑥子育て短期支援事業

### 令和2～3年度実績

区分	R2年度（実績）	R3年度（実績）
量の見込み（延べ利用人数）	93人	57人
確保方策（延べ利用人数）	93人	57人

### 当初見込みとの比較

R2年度	R3年度
71.5%	43.9%
71.5%	43.9%

### 実績を踏まえた令和4年度～推計値（案）

区分	R4年度	R5年度	R6年度
量の見込み（延べ利用人数） （H29～R3実績ベース）	70人	67人	65人
確保方策（延べ利用人数） （H29～R3実績ベース）	70人	67人	65人

### 計画当初推計値

R4年度	R5年度	R6年度
130人	130人	130人
130人	130人	130人

変更なし

### 検討の経緯・方向性等

#### 《見直しの方向性》

量の見込み及び確保方策について、当初計画どおりとする必要があると考えます。

#### 《検討経緯・背景等》

令和2～3年度実績及び人口推計から、令和4年度以降の推計値については、当初推計よりも下回る形となっています。従前から、母子世帯の利用が多く、近年においてもその傾向に変化はないため、現時点において、大幅な利用件数の増減が生じるものではないと考えます。

一方、本事業については、人口減少傾向やコロナ禍による影響等にかかわらず、本事業を必要とされる方にとってのセーフティネットとして、受入体制を十分に確保する必要があると考えられ、実績如何にかかわらず体制を整備する必要があります。

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況8

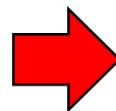
## ⑦ファミリーサポートセンター事業

### 令和2～3年度実績

区分	R2年度	R3年度
量の見込み（延べ利用人数）	2,212人	2,332人
確保方策（延べ利用人数）	2,212人	2,332人

### 当初見込みとの比較

R2年度	R3年度
127.1%	133.3%
127.1%	133.3%



### 実績を踏まえた令和4年度～推計値（案）

区分	R4年度	R5年度	R6年度
量の見込み（延べ利用人数） （R元～R3実績ベース）	2,434人	2,540人	2,651人
確保方策（延べ利用人数） （R元～R3実績ベース）	2,434人	2,540人	2,651人

### 計画当初推計値

R4年度	R5年度	R6年度
1,770人	1,790人	1,810人
1,770人	1,790人	1,810人



### 検討の経緯・方向性等

### 見直し（案）

#### 《見直しの方向性》

量の見込み及び確保方策について、上方修正が必要と考えます。

#### 《検討経緯・背景等》

ホームページの刷新、オンラインでの会員登録等、事業者による取組に加えて、子育て世帯における家庭状況の多様化や新型コロナウイルス感染症の影響（保育施設の臨時休業・一時預かりの利用制限等）などにより、当初推計よりも上回る状況となっています。

令和4年度以降も現状の傾向が続くと想定されることから、近年の利用人数の動向から試算した人数をもって修正することを検討します。

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況⑨

## ⑧一時預かり事業（幼稚園在園児）

### 令和2～3年度実績

区分	R2年度	R3年度
量の見込み（延べ利用人数）	104,896人	118,714人
確保方策（延べ利用人数）	104,896人	118,714人

### 当初見込みとの比較

R2年度	R3年度
81.5%	89.8%
81.5%	89.8%

### 実績を踏まえた令和4年度～推計値（案）

区分	R4年度	R5年度	R6年度
（案1）H29～R3実績ベース			
量の見込み（延べ利用人数）	123,280人	128,820人	133,712人
確保方策（延べ利用人数）	123,280人	128,820人	133,712人

### 計画当初推計値

R4年度	R5年度	R6年度
138,030人	144,820人	153,340人
138,030人	144,820人	153,340人

### （案2）H29～R元実績ベース

量の見込み（延べ利用人数）	120,950人	124,300人	127,136人
確保方策（延べ利用人数）	120,950人	124,300人	127,136人

### 検討の経緯・方向性等

#### 《見直しの方向性》

量の見込み及び確保方策について下方修正することが必要と考えます。

#### 《検討経緯・背景等》

令和2～3年度は、1号認定こどもの減少傾向及び新型コロナウイルス感染症の影響のなかで、当初見込みほど増加はしておりませんが、令和元年度に開始した幼児教育・保育の無償化により、延べ利用人数は増加傾向にあります。

今後も、引き続き同程度の増加傾向で推移することが見込まれます。

見直し（案）

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況10

## ⑧一時預かり事業（幼稚園在園児以外）

### 令和2～3年度実績

区分	R2年度	R3年度
量の見込み（延べ利用人数）	2,327人	1,959人
確保方策（延べ利用人数）	2,327人	1,959人

### 当初見込みとの比較

	R2年度	R3年度
量の見込み	56.0%	54.7%
確保方策	56.0%	54.7%



### 計画当初推計値

	R4年度	R5年度	R6年度
量の見込み	3,180人	2,820人	2,500人
確保方策	3,180人	2,820人	2,500人

変更なし



### 実績を踏まえた令和4年度～推計値（案）

区分	R4年度	R5年度	R6年度
（案1）H29～R3実績ベース			
量の見込み（延べ利用人数）	1,546人	1,220人	963人
確保方策（延べ利用人数）	1,546人	1,220人	963人
（案2）H29～R元実績ベース			
量の見込み（延べ利用人数）	4,245人	3,714人	3,250人
確保方策（延べ利用人数）	4,245人	3,714人	3,250人

### 検討の経緯・方向性等

#### 《見直しの方向性》

量の見込み及び確保方策について、当初計画どおりとする必要があると考えます。

#### 《検討経緯・背景等》

令和2～3年度において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により利用人数は減となっています。

今後については、コロナによる影響が低減されれば一定の回復が見込まれますが、対象となる乳幼児の減少傾向等もあるため、当初計画のとおりとすることを検討しています。

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況 11

## ⑨延長保育事業

### 令和2～3年度実績

区分	R2年度	R3年度
量の見込み（利用実人数）	3,069人	2,947人
確保方策（利用実人数）	3,069人	2,947人

### 当初見込みとの比較

R2年度	R3年度
83.6%	80.3%
83.6%	80.3%

### 計画当初推計値

R4年度	R5年度	R6年度
3,670人	3,670人	3,670人
3,670人	3,670人	3,670人

### 実績を踏まえた令和4年度～推計値（案）

区分	R4年度	R5年度	R6年度
(案1) H29～R3実績ベース			
量の見込み（利用実人数）	2,928人	2,932人	2,923人
確保方策（利用実人数）	2,928人	2,932人	2,923人
(案2) H29～R元実績ベース			
量の見込み（利用実人数）	3,139人	3,136人	3,123人
確保方策（利用実人数）	3,139人	3,136人	3,123人

### 検討の経緯・方向性等

#### 《見直しの方向性》

量の見込み及び確保方策について、下方修正が必要と考えます。

#### 《検討経緯・背景等》

令和2～3年度において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により利用人数は減となっています。

今後については、コロナによる影響が低減されれば一定の回復が見込まれるため、コロナの影響を受けた令和2～3年度の実績を除外し、試算した人数をもって修正することを検討しています。

見直し（案）

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況12

## ⑩病児保育事業

### 令和2～3年度実績

区分	R2年度	R3年度
量の見込み（延べ利用人数）	1,603人	1,579人
確保方策（延べ利用定員数）	9,408人	9,408人

### 当初見込みとの比較

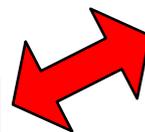
R2年度	R3年度
50.1%	49.3%
83.6%	80.3%



### 計画当初推計値

R4年度	R5年度	R6年度
3,200人	3,200人	3,200人
9,408人	9,408人	9,408人

変更なし



### 実績を踏まえた令和4年度～推計値（案）

区分	R4年度	R5年度	R6年度
（案1）H29～R3実績ベース			
量の見込み（延べ利用人数）	2,215人	2,150人	2,085人
確保方策（延べ利用定員数）	9,408人	9,408人	9,408人
（案2）H29～R元実績ベース			
量の見込み（延べ利用人数）	2,631人	2,553人	2,477人
確保方策（延べ利用定員数）	9,408人	9,408人	9,408人

### 検討の経緯・方向性等

#### 《見直しの方向性》

量の見込み及び確保方策について、当初計画どおりとする必要があると考えます。

#### 《検討経緯・背景等》

令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により利用人数は減となっています。

今後については、コロナによる影響が低減されれば、コロナ禍前（令和元年度）の水準で推移することが考えられること、事業の性質上、感染症の流行状況等に左右される影響が大きいことから、引き続き見込を同数としました。

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況13

## ⑪放課後児童健全育成事業

令和2～3年度実績

区分	R2年度	R3年度
量の見込み（利用実人数）	2,757人	2,634人

当初見込みとの比較

R2年度	R3年度
100.8%	92.7%

計画当初推計値

区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
量の見込み（利用実人数）	2,736人	2,843人	2,955人	3,027人	3,082人
1年生	880人	916人	954人	978人	996人
2年生	753人	785人	818人	839人	855人
3年生	507人	528人	551人	565人	575人
4年生	314人	323人	332人	339人	345人
5年生	178人	184人	189人	193人	196人
6年生	104人	107人	111人	113人	115人
確保方策（利用定員数）	2,975人	3,055人	3,135人	3,215人	3,255人

実績を踏まえた令和4年度～推計値（案）R元～R3実績ベース

区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
量の見込み（利用実人数）	2,757人	2,634人	2,731人	2,815人	2,790人
1年生	857人	757人	786人	796人	788人
2年生	713人	752人	784人	793人	785人
3年生	556人	499人	523人	542人	538人
4年生	332人	355人	357人	377人	373人
5年生	194人	166人	166人	175人	174人
6年生	105人	105人	115人	132人	132人
確保方策（利用定員数）	2,975人	2,965人	2,965人	3,045人	3,085人

見直し（案）

### 検討の経緯・方向性等

《見直しの方向性》 量の見込み及び確保方策について、下方修正する必要があると考えます。

《検討経緯・背景等》

- ・近年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等もあり、放課後児童クラブの利用人数は横ばいの傾向です。
- ・留守家庭の割合につきましては今後も増加傾向と見込まれますが、少子化の影響もあり、利用人数の伸びは当初推計より鈍化するものと見込まれます。
- ・令和4年度以降については、近年の利用人数の動向と「お子様の放課後の過ごし方アンケート」結果等を加味し試算した人数をもって修正することを検討しています。

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況14

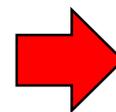
## ⑫実費徴収に係る補足給付を行う事業

### 令和2～3年度実績

区分	R2年度	R3年度
実施の有無（実施内容）	一部実施 ・新制度未移行の幼稚園を利用する児童の副食材料費の一部助成について実施。なお、他の費用については、国の状況等を見ながら、必要に応じ検討。	一部実施

### 当初見込みとの比較

R2年度	R3年度
100%	100%



### 実績を踏まえた令和4年度～対応（案）

区分	R4年度	R5年度	R6年度
実施の有無（実施内容）	一部実施	一部実施	一部実施
	同上		



### 計画当初推計値

R4年度	R5年度	R6年度
一部実施	一部実施	一部実施

変更なし

### 検討の経緯・方向性等

#### 《見直しの方向性》

引き続き、事業を実施していく必要があると考えます。

#### 《検討の経緯・背景等》

保護者が利用する施設のの違いで同収入世帯の副食費負担が生じないよう公平性の観点からも引き続き実施が必要と考えます。

# 3 地域子ども・子育て支援事業 推計概況15

## ⑬多様な事業者の参入促進・能力活用事業

実績を踏まえた令和4年度～対応（案）

事業	区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
[新規参入施設等への巡回支援] [認定こども園特別支援教育・保育経費] 健康面や発達面において特別な支援が必要な子どもを受け入れる認定こども園に対して、職員の加配に必要な人件費の一部を助成する事業	今後の方針	未実施	未実施	・国の状況等を見ながら、必要に応じ、事業実施について検討		

### 検討の経緯・方向性等

既存の事業・体制の活用により、新たな事業実施はございませんが、今後とも国の状況等を見ながら、必要に応じ事業実施について検討してまいります。